

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	スマイルシップ		
○保護者評価実施期間	R8年 1月 29日		～ R8年 2月 8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	R8年 1月 29日		～ R8年 2月 8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 3月 6日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	運営事業として就労継続支援も別にある為、進路の際など横断体制が取れていたり就労準備型としての形式を取れる体制が整っている。	○就労事業所見学の希望を受け付けている。 ○中高生などの利用家族などのモニタリングや話し合いの際に進路や実習についての話をこちらからさせていただいている。	○実際の高校生や実習が本格的に始まってきたら本人やご家族とのフィードバックを行い、次につながるようなことやプログラムの作成につなげていき、利用児の就職の促進に携わっていきたい。
2	公共の場の充実(地域の公園と隣接)しているため、過ごしやすい環境が整っている。	○放課後の醍醐味とも言える、地域の友達と交流をはかれるようになった。その中で、職員が間に入りながら友達との関係づくりを学ぶ機会を大切にしている。 ○事業所での子どもたちの様子が伝わるよう、お迎えの際の共有や連携はもちろん、定期的に写真や動画での活動内容の発信を心がけている。	○各プログラムなどを、より個別にクリアに作っていくことで現在の効果を拡大していけるようにしたい。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○非常時等の対応の周知が徹底されていない。	○保護者の方が出入りする玄関先に掲示したり資料を用意したり、閲覧していただけるようなスペースの確保ができなかった。	○導入予定の専用ソフトを通じて各種マニュアルの周知、保護者会等の機会を利用し周知の方法を工夫していく。
2	○保護者同士の交流が少ない	○保護者会を企画したが、参加人数が少なかった。 ○事業所と利用児家族との関係構築はできているが、利用児の家族間交流については今後ニーズを伺っていききたい。	○参加しやすい内容を検討していく。 ○保護者の方のニーズの確認。
3	○地域とのつながりが薄い	○関係のある事業所様に慰問要請などをかけていききたい。利用児家族のニーズも今後伺っていききたい。	